

# ふれあい新聞

<http://townweb.e-okayamacity.jp/tanakanoda/>

第112号 (季刊)  
平成26年10月  
田中野田町内会

## 防災に思う

町内会副会長 遠藤 欽也

山陽新聞のコラム「滴一滴」にこんな記事が載っていました。

「数10年に1度の大雨が予想されます。直ちに命を守る行動をとってください。」そんな切迫した警告を、よく耳にするようになった。気象庁の「特別警報」である。運用開始から1年になった。

2011年の紀伊半島豪雨などで、危険性が伝わらなかった教訓から新設された「注意報」「警報」の上に位置し、大雨や暴風、高潮など6種類の災害で冒頭のように警鐘を鳴らす。これまで4件が発表された。死角も見えてきた。

8月の台風11号では三重県に特別警報がでたが、徳島県では、集中豪雨で中学校舎の2階まで浸水したが対象外だった。その土地の過去のデータに基づいて判断するため、多雨の地域ではハードルが高くなる。昨年台風で36人が犠牲になった伊豆大島では、雨は「50年に1度」の数値の倍以上も降ったが発表にはいたらなかった。

70数人が亡くなった広島市の土砂災害、これも局地的豪雨だったため、「警報」にとどまった。発表が出ないからといって安心はできない。

物理学者で随筆家の寺田寅彦氏は災害との向き合い方をこう記した。「怖がらな過ぎたり、怖がり過ぎたりするのはやさしいが、正當に怖がることはなかなか難しい」と。

町内にも2級河川の笹ヶ瀬川が南北に流れています。3年前の増水時には堤防ギリギリに水かさが増し、御南大橋西詰では、前の道路が水びたしになり地元消防がポンプ車で水を笹ヶ瀬川に排水していたが、間に合わない状態でした。

土のうを積んで応急処置をしていた。当町内は田中ポンプ場が完成したばかりで、農業用水の排水作業がスムーズにいき、床下浸水が数件ありましたが大事には至りませんでした。堤防も80cmのカサ上げが9月に完了し安心ですが、南海トラフ地震がささやかれている中、安心も絶対ということはありません。

その一方で減災に向けた対策を講じれば、死者を「5分の1にまで減らすことができる」と内閣府は指摘しています。つまり防災対策を行政任せにせず、日頃から家財の固定や避難ルートを確認するなど、小さな積み重ねが大きな効果を生み出すというわけです。いざという時に備え防災対策に取り組みましょう。

岡山県が大都市圏や他地域からの移住先として高い人気を集めていると言われていいます。

災害が少ないことや温暖な気候などが主な理由です。

この町内にも県外、他地域から移り住んでいる人がたくさんおられます。これからも住民一人一人が声を掛け合い、コミュニケーションを取って一層の住みよい町になればと思っています。



田中ポンプ場